

2020年度第1四半期決算

取締役 兼 執行役員 財務・グローバルマネジメント本部長
福永 彰宏

2020年8月6日
古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

2020年度第1四半期決算実績

Intentionally Blank

■ 売上高

新型コロナウイルスの影響が大きく減収

■ 営業利益

- ・ 電装エレクトロニクスセグメントは、自動車部品事業を中心に減収・減益
- ・ 機能製品セグメントは、データセンタ関連需要の回復はあるものの、建築用途や車載用途の機能樹脂製品、車載向け電池用銅箔の減収により減益

■ 親会社株主に帰属する当期純利益

特別損失（製品補償引当、事業譲渡損）計上も、固定資産処分益の計上により大幅増益

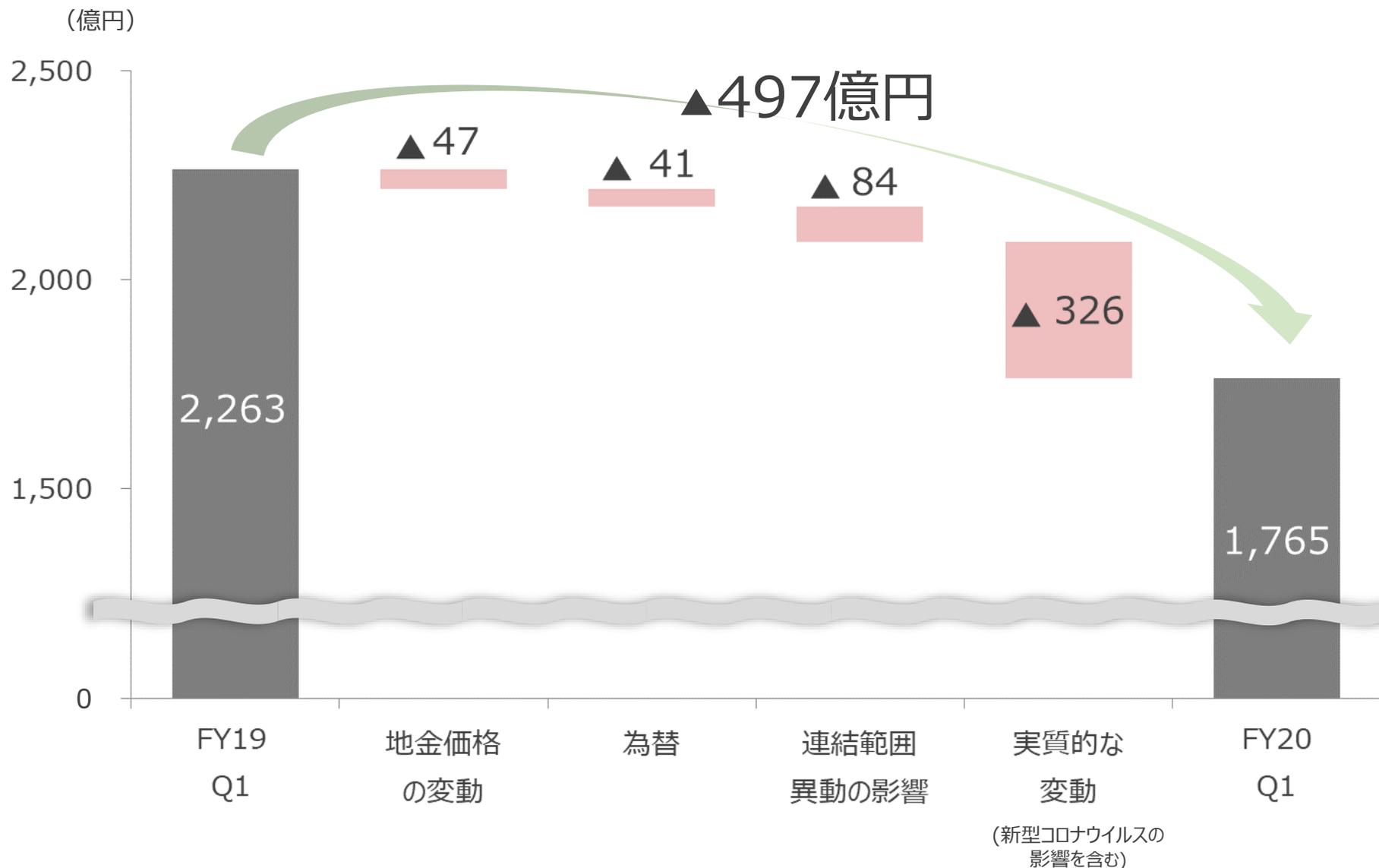
(単位：億円)	FY19Q1	FY20Q1	
			前年比
売上高	2,263	1,765	▲497
営業利益	49	▲12	▲62
経常利益	39	▲15	▲53
親会社株主に帰属する 当期純利益	23	78	+56

2020年度Q1実績 – 要約P/L

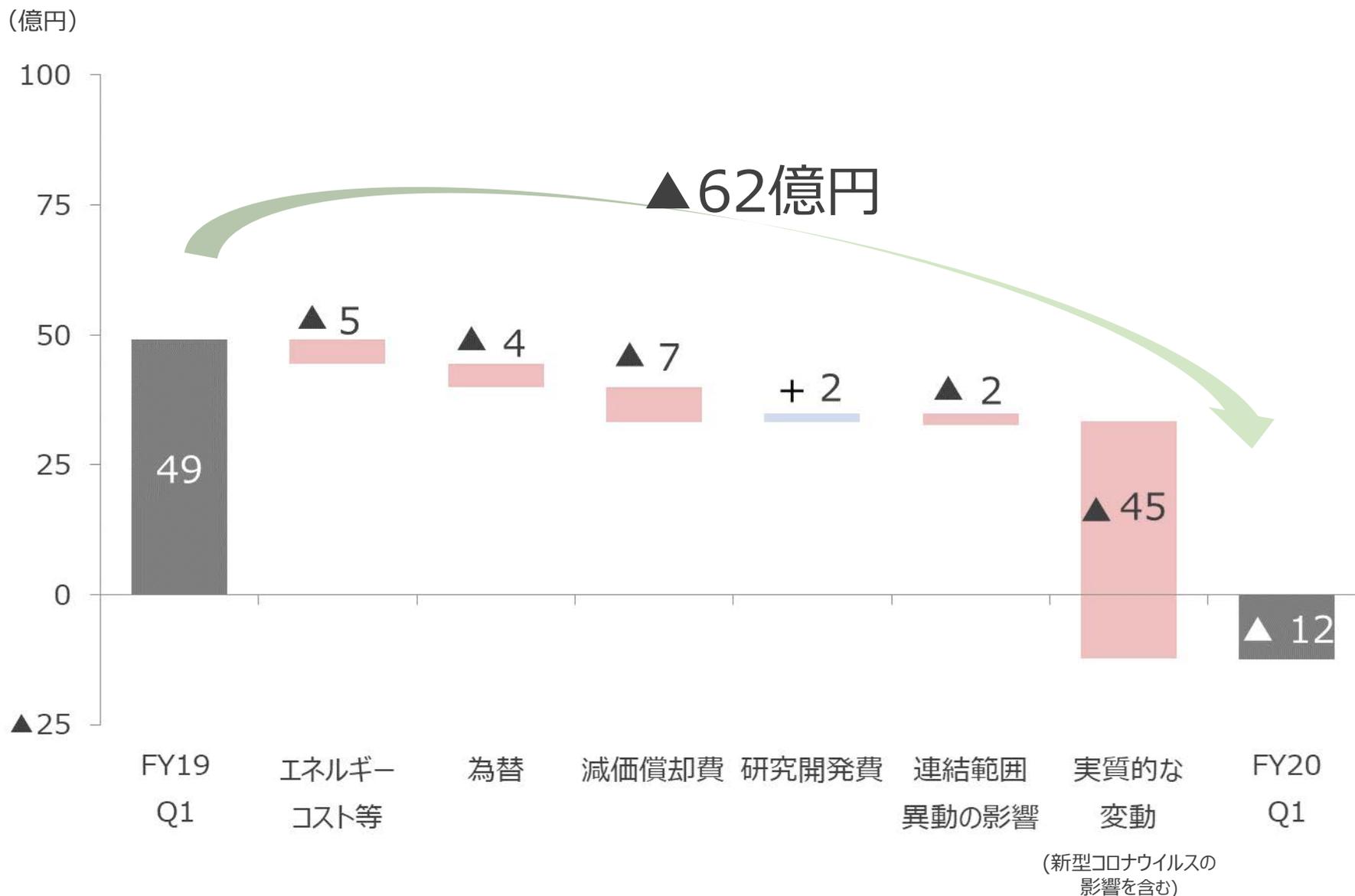
(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY19 Q1	FY20 Q1	前年比	主な増減内訳 (Q1)
	a	b	b-a	
売上高	2,263	1,765	▲ 497	▲497億円(▲22%) 7ページ参照
営業利益	49	▲ 12	▲ 62	▲62億円
(率)	2.2%	▲ 0.7%	▲ 2.9	8ページ参照
持分法投資損益	▲3	0	+3	
為替損益	▲ 4	1	+5	
経常利益	39	▲ 15	▲ 53	▲53億円
(率)	1.7%	▲ 0.8%	▲ 2.5	
特別損益	4	137	+133	・特別利益：+216 (13→229)
法人税等	22	40	+18	・特別損失：▲82 (▲9→▲92)
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 2	4	+6	
親会社株主に帰属する 当期純利益	23	78	+56	+56億円(+245%)
(率)	1.0%	4.4%	+3.4	
銅建値 平均	717	616	—	
為替 平均	110	108	—	

売上高の増減要因（前年比）



営業利益の増減要因（前年比）



セグメント別売上高および営業利益

(単位：億円)

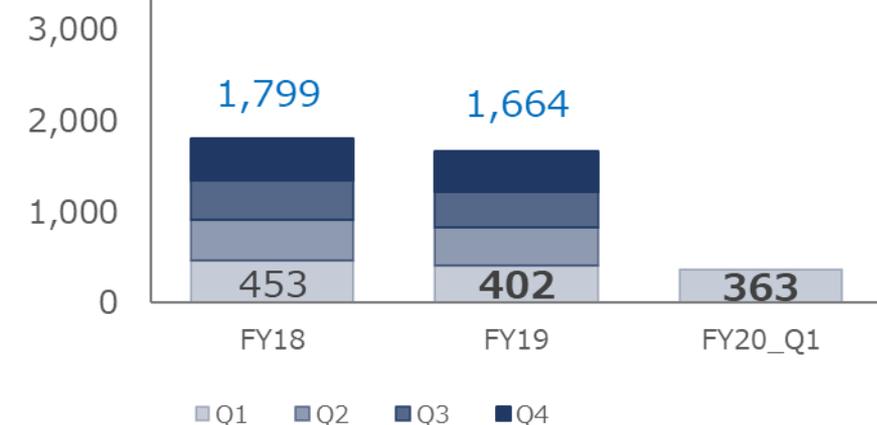
		Q1		
		FY19 実績	FY20 実績	前年差
売上高	インフラ	677	562	▲ 115
	情報通信ソリューション	402	363	▲ 39
	エネルギーインフラ	275	200	▲ 75
	電装エレクトロニクス	1,280	925	▲ 355
	自動車部品・電池	607	515	▲ 91
	電装エレクトロニクス材料	674	410	▲ 264
	機能製品	294	257	▲ 38
	サービス・開発等	123	103	▲ 20
	連結消去	▲ 112	▲ 82	+30
	連結合計	2,263	1,765	▲ 497
営業利益	インフラ	▲ 4	▲ 1	+3
	情報通信ソリューション	1	2	+1
	エネルギーインフラ	▲ 4	▲ 2	+2
	電装エレクトロニクス	35	▲ 18	▲ 53
	自動車部品・電池	27	▲ 18	▲ 45
	電装エレクトロニクス材料	8	▲ 0	▲ 9
	機能製品	19	11	▲ 8
	サービス・開発等	▲ 1	▲ 4	▲ 4
	連結消去	▲ 1	0	+1
	連結合計	49	▲ 12	▲ 62

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

(事業部門：ファイバ・ケーブル、ファイテル製品、ブロードバンドソリューション)

売上高

(億円)

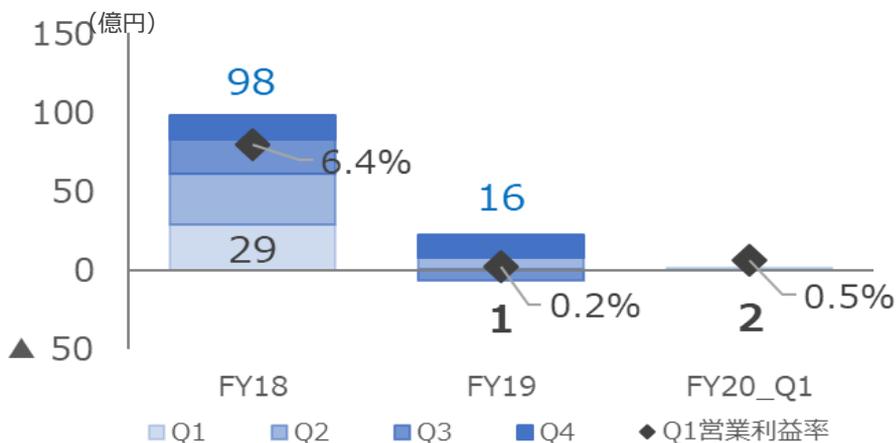


営業利益：前年比 +1億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 北米の光ファイバ・ケーブルは引き続き堅調な需要環境のもと増収
- デジタルコヒーレント関連製品は供給能力向上により増収

営業利益・営業利益率



- 光ファイバ・ケーブルの競争環境は引き続き厳しく、新型コロナウイルスの影響による需要減もあり、中南米、欧州、アジアで減収
- 北米の光ケーブル拠点は新型コロナウイルスの影響による操業低下
- 新興国通貨（ブラジルレアル等）安の影響
- 償却費等の増加

青：通期 売上・営業利益
黒：Q1 売上・営業利益

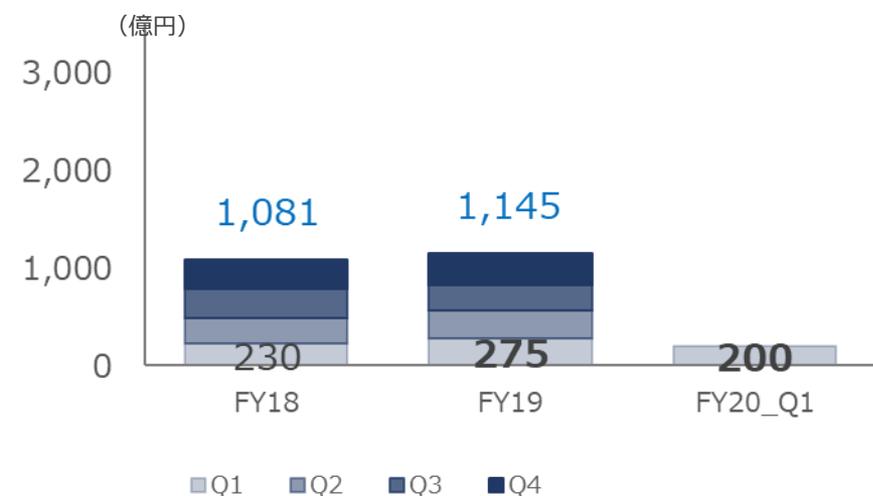
1-(2) インフラ (エネルギーインフラ)

売上高

(事業部門：電力、産業電線・機器)

営業利益：前年比 +2億円

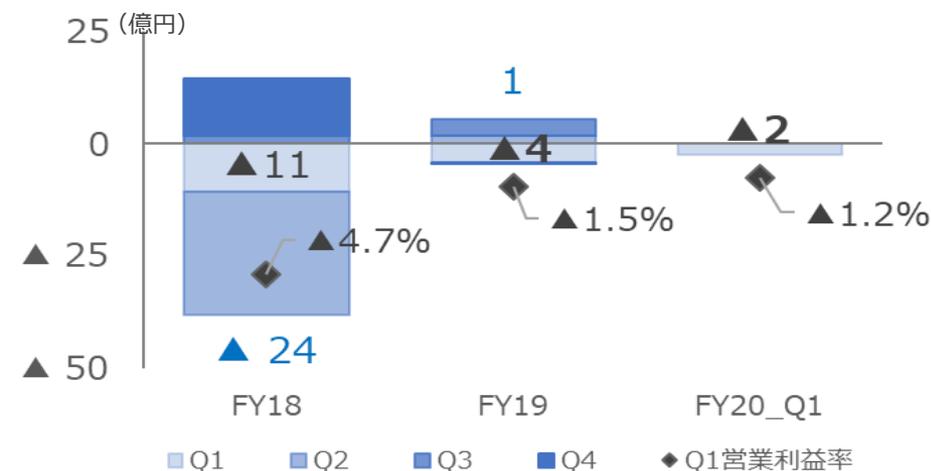
□：増益要因 ■：減益要因



□ 国内再生可能エネルギー関連、海外地中線案件の進捗は順調

- 新型コロナウイルスの影響による、中国子会社の操業低下や国内建販市場向け汎用線の減収
- 新規材料採用に伴う評価費用等の一時的増加

営業利益・営業利益率

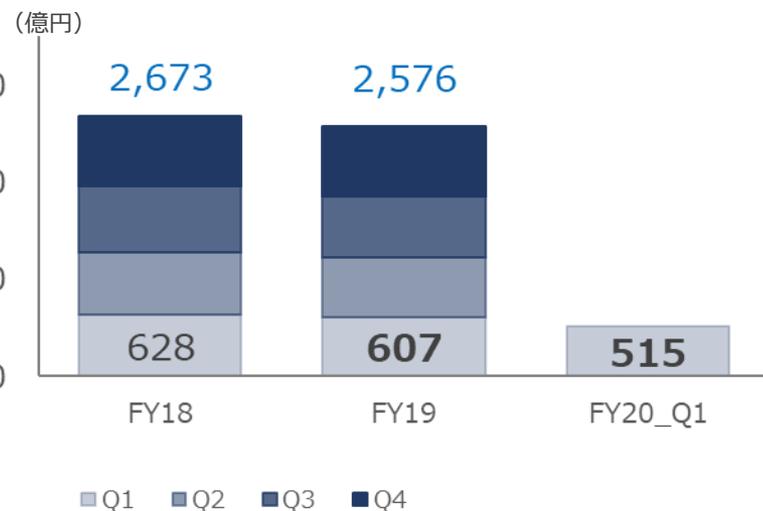


青：通期 売上・営業利益
黒：Q1 売上・営業利益

2-(1) 電装エレクトロニクス (自動車部品・電池)

(事業部門：自動車部品、電池)

売上高



営業利益：前年比 ▲45億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 新型コロナウイルスの影響による海外工場の一時操業停止および再稼働後の稼働率低下、輸送費・代替生産関連費用の増加
- 受注案件対応投資による設備償却費の増加
- 海外子会社の生産性改善効果等もあり電池は増益

営業利益・営業利益率



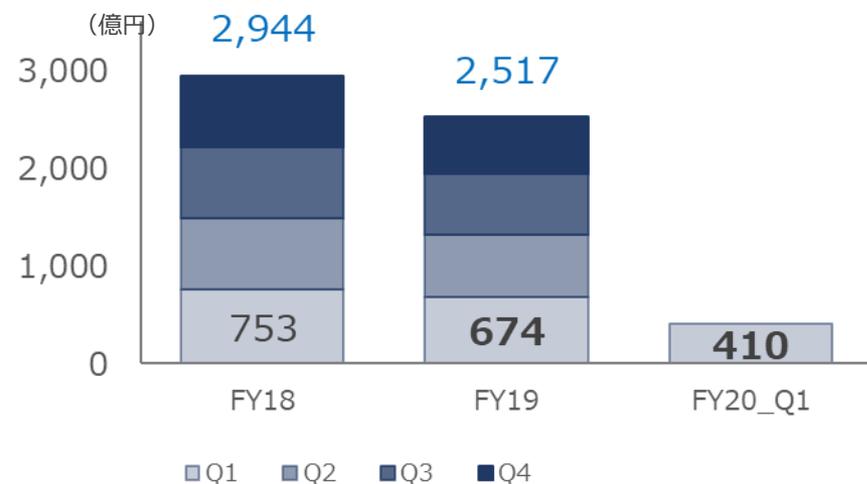
青：通期 売上・営業利益

黒：Q1 売上・営業利益

2-(2) 電装エレクトロニクス (電装エレクトロニクス材料)

(事業部門：導電材、巻線、銅条・高機能材、銅管)

売上高



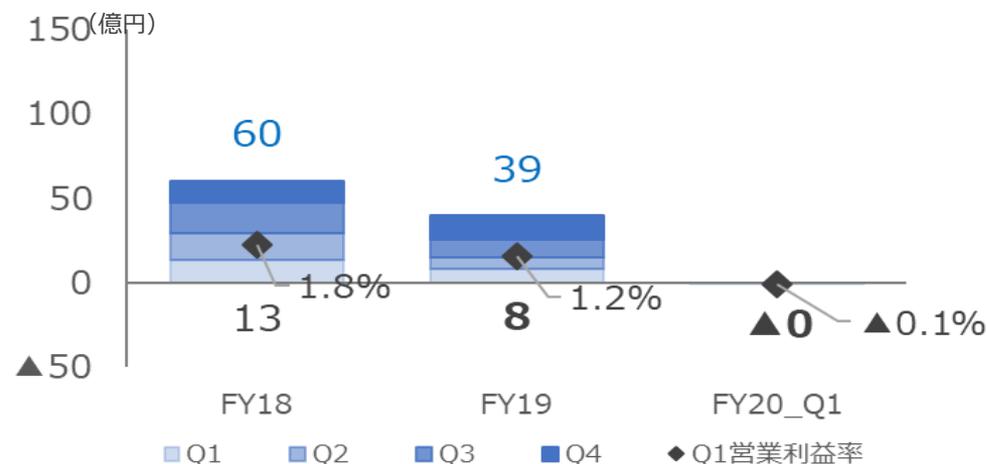
営業利益：前年比 ▲9億円

□：増益要因 ■：減益要因

- 自動車用途関連の製品を中心に減収
- 事業再編の影響（銅管事業譲渡）

- リモートワークの普及により、タブレット等のモバイル機器向け需要は好調

営業利益・営業利益率

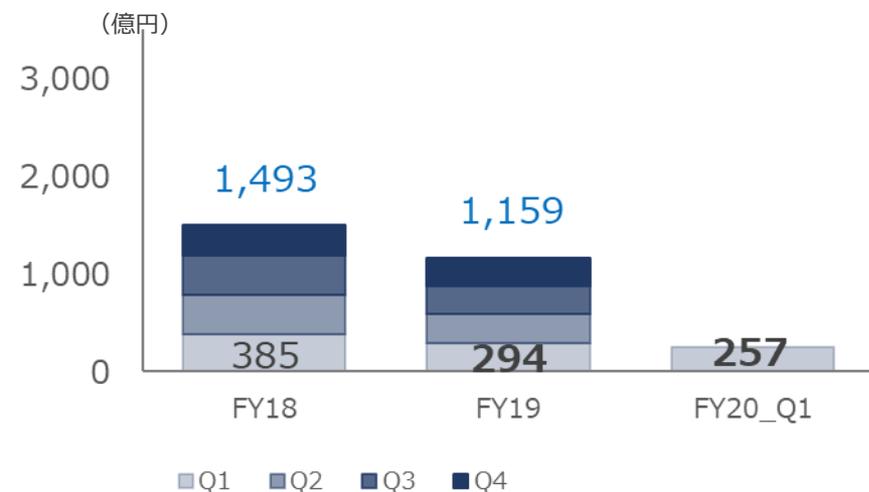


青：通期 売上・営業利益
黒：Q1 売上・営業利益

3 機能製品

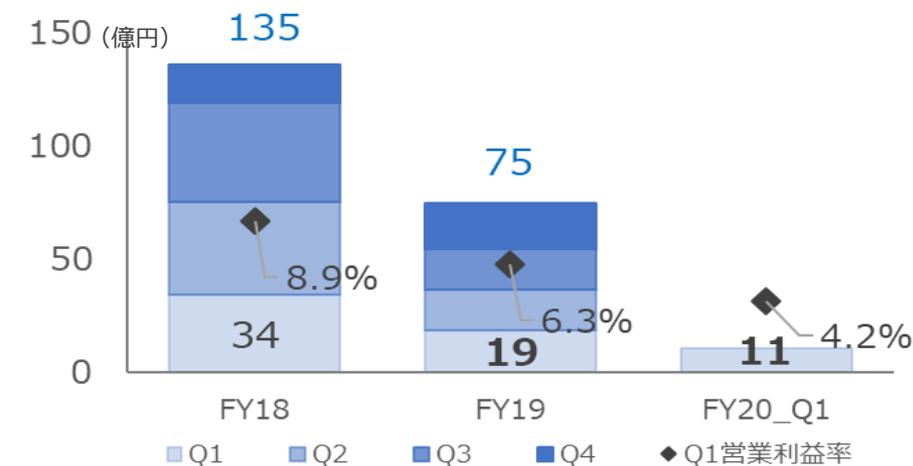
売上高

(事業部門：AT・機能樹脂、サーマル・電子部品、メモリーディスク、銅箔)

営業利益：前年比 ▲8億円
：増益要因 ：減益要因


- 新型コロナウイルスによる、国内の民間建築工事の遅れや、海外の自動車関連需要の落ち込みにより機能樹脂製品は減収
- 半導体製造用テープは、スマートフォン販売不振により減収
- 車載向け電池用銅箔の需要減少

営業利益・営業利益率



- 投資が抑制されていた前年に比べ、データセンタ関連等の需要回復
- リモートワークの普及により、パソコン向け需要も好調

青：通期 売上・営業利益
黒：Q1 売上・営業利益

2020年度Q1実績 – 要約 B/S

(単位：億円)

	FY19Q4末	FY20Q1末	増減
	a	b	b-a
流動資産	3,862	4,224	+362
現金及び預金	544	1,128	+584
受取手形及び売掛金	1,925	1,577	▲ 349
たな卸資産計	1,159	1,222	+64
固定資産	4,084	3,979	▲ 105
有形固定資産	2,542	2,484	▲ 58
無形固定資産	161	172	+11
投資その他の資産	1,381	1,323	▲ 58
資産合計	7,946	8,203	+257
流動負債	3,196	3,346	+149
固定負債	2,019	2,154	+134
負債合計	5,216	5,500	+284
株主資本	2,567	2,585	+18
その他の包括利益累計額	▲164	▲169	▲ 5
非支配株主持分	328	288	▲ 40
純資産合計	2,730	2,704	▲ 26
負債・純資産合計	7,946	8,203	+257
有利子負債	2,511	2,961	+450
自己資本比率	30.2%	29.5%	▲ 0.7
NET D/Eレシオ	0.8	0.8	▲0.1

現預金
手元流動性強化
584億円 増加

たな卸資産
64億円 増加
新型コロナウイルスによる影響
将来売上計上予定のプロジェクト・工事案件等

事業譲渡による影響
▲43億円

有形無形固定資産
47億円 減少

設備投資増減の影響
▲2億円

事業譲渡による影響
▲22億円

NET有利子負債
134億円 減少
(1,967億円→1,833億円)

(単位：億円)

	FY19 Q1 実績	FY20 Q1 実績	前年比
	a	b	b-a
設備投資額	122	76	▲ 46
減価償却費	71	78	+7
研究開発費	54	52	▲ 2

2020年度年間予想

■ 売上高

自動車関連事業を中心とした電装エレクトロニクスセグメントで大きな減収を予想

■ 営業利益

全社での原価低減、経費および固定費削減施策実行も、減収影響や償却費増により大幅な減益となる見込み

■ 経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

当社の一部の持分法適用会社の通期業績予想が未定であり、合理的算定が困難なため未定

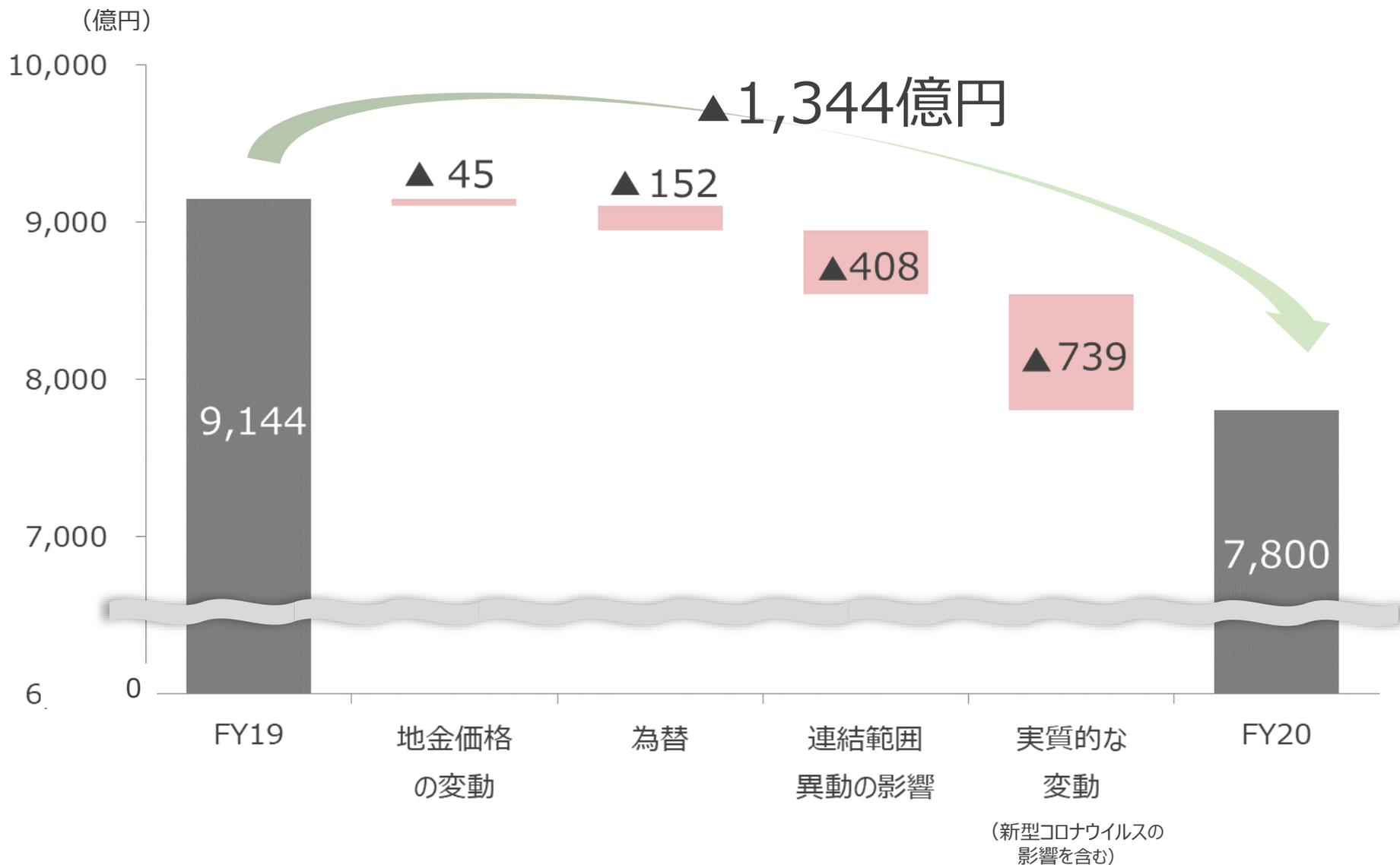
2020年度の配当予想につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の合理的算定が困難なため、未定とさせていただきます。今後、可能となった時点で速やかに開示いたします。

(単位：億円)

	19年度実績	20年度予想	
			前年比
売上高	9,144	7,800	▲ 1,344
営業利益	236	50	▲ 186
経常利益	228	未定	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	未定	—
銅建値平均 (円/kg)	682	Q1実績：616, Q2以降：640	—
為替平均 (円/米ドル)	109	Q1実績：108, Q2以降：105	—

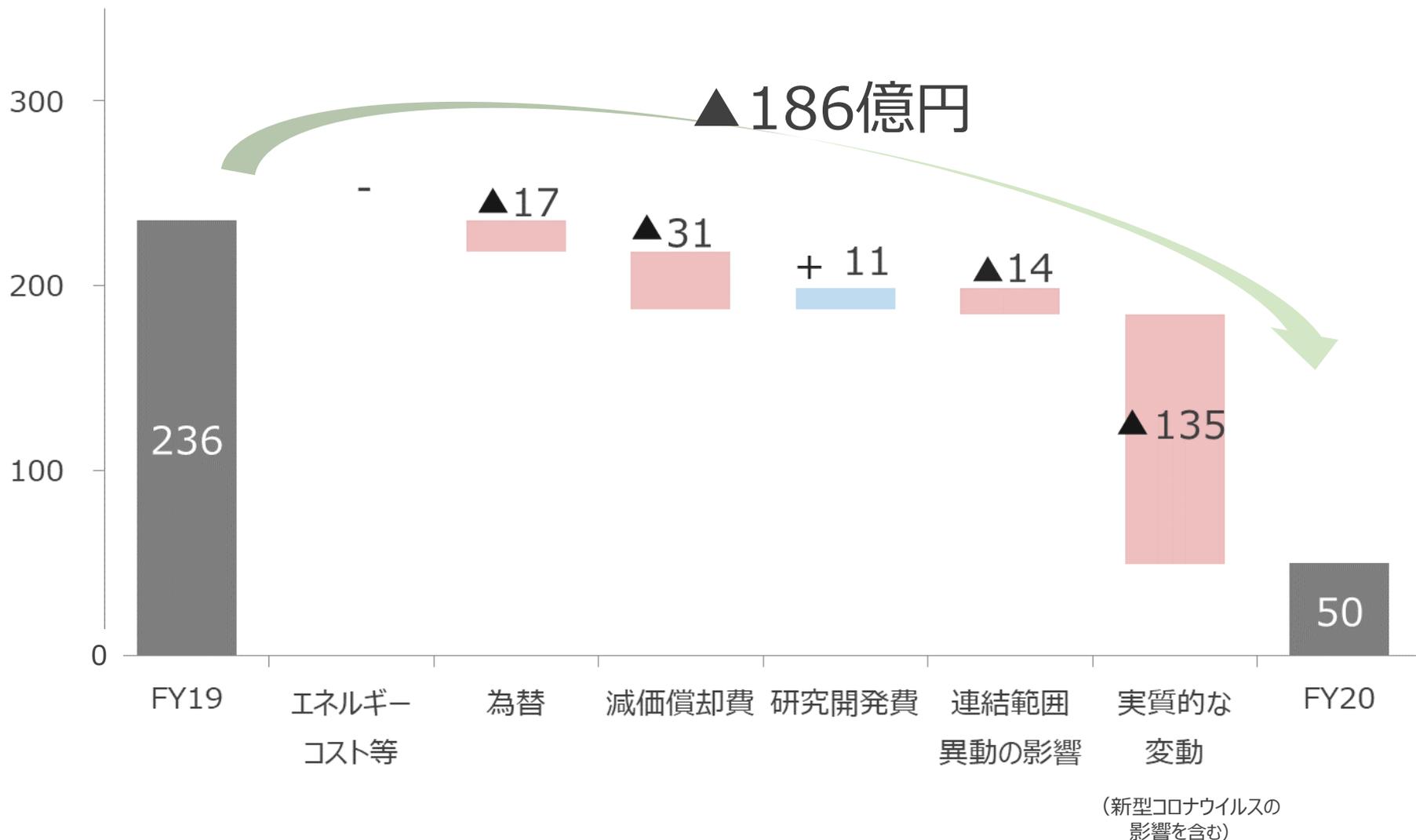
20年度予想には、事業再編（銅管事業の譲渡および太物巻線事業の譲渡）による影響を含む

売上高の増減要因（前年比）



営業利益の増減要因（前年比）

(億円)



セグメント別売上高および営業利益予想

(単位：億円)

	売上高			営業利益			□増益 / ■減益ポイント
	FY19 実績	FY20 予想	前年比	FY19 実績	FY20 予想	前年比	
インフラ	2,809	2,650	▲ 159	17	10	▲ 7	
情報通信ソリューション	1,664	1,600	▲ 64	16	20	+4	<ul style="list-style-type: none"> □北米の光ファイバ・ケーブル、デジタルコヒーレント関連製品の受注堅調 ■光ファイバ・ケーブルの中南米、欧州、アジアでの厳しい競争環境継続 ■新興国通貨（ブラジルレアル等）安、償却費等の増加の影響
エネルギーインフラ	1,145	1,050	▲ 95	1	▲ 10	▲ 11	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルスの影響で、中国子会社の一時操業低下 ■新規材料採用に伴う評価費用等の一時的な増加 ■国内の汎用線減収 □国内再生エネルギー、地中線案件の着実な進捗
電装エレクトロニクス	5,093	4,050	▲ 1,043	148	10	▲ 138	
自動車部品・電池	2,576	2,350	▲ 226	109	10	▲ 99	<ul style="list-style-type: none"> ■海外工場の一時操業停止および再稼働後の稼働率低下、輸送費・代替生産関連費用の増加 ■品種構成差 ■受注対応案件対応投資による設備償却費等の増加
電装エレクトロニクス材料	2,517	1,700	▲ 817	39	0	▲ 39	<ul style="list-style-type: none"> ■自動車・建販関連需要減少による減収 ■事業再編の影響（銅管事業・太物巻線事業） □医療用途向けニッケル・チタン合金製品は堅調
機能製品	1,159	1,050	▲ 109	75	50	▲ 25	<ul style="list-style-type: none"> ■国内の民間建築工事、海外の自動車関連需要低迷継続 ■半導体製造用テープは、スマートフォン、自動車向け用途の需要低迷の影響で減収 □データセンタ関連の需要は前年に比べ回復
サービス・開発等	503	450	▲ 53	▲ 3	▲ 20	▲ 17	■新型コロナウイルスの影響によるサービス関連業務の減収
連結消去	▲ 420	▲ 400	+20	▲ 1	0	+1	
連結合計	9,144	7,800	▲ 1,344	236	50	▲ 186	

営業利益予想（セグメント別トレンド）

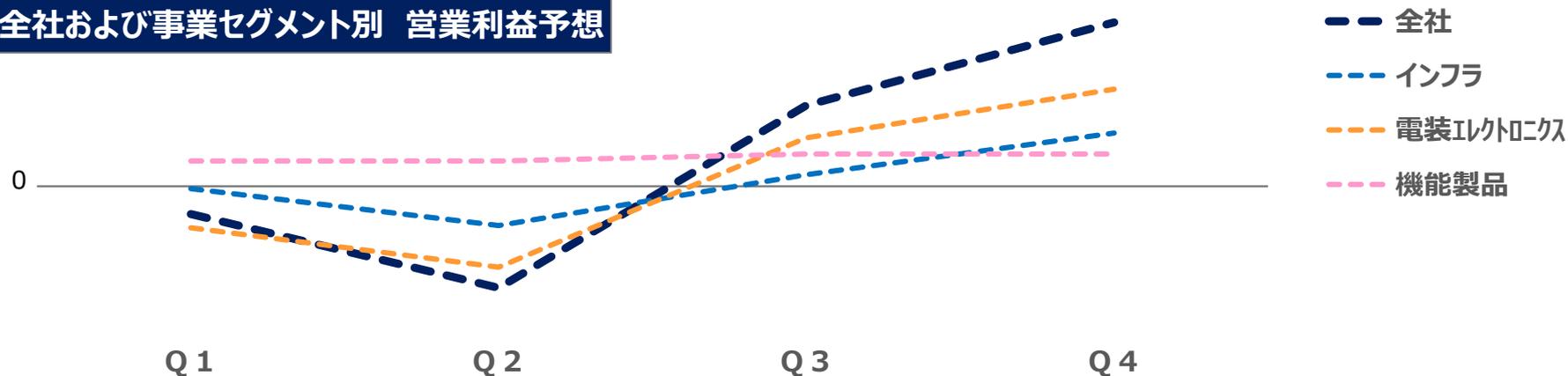
- 上期は大幅な赤字を予想。Q3から黒字基調に戻る見通し
- Q2は自動車部品事業（電装エレクトロニクスセグメント）および電力事業（インフラセグメント）において、新型コロナウイルスによる海外子会社の操業低下影響*等が大きく発現する見通し

* 複数の海外子会社において決算期が1-12月であることによる

■ Q3以降の見通し（上期比：事業セグメント別）

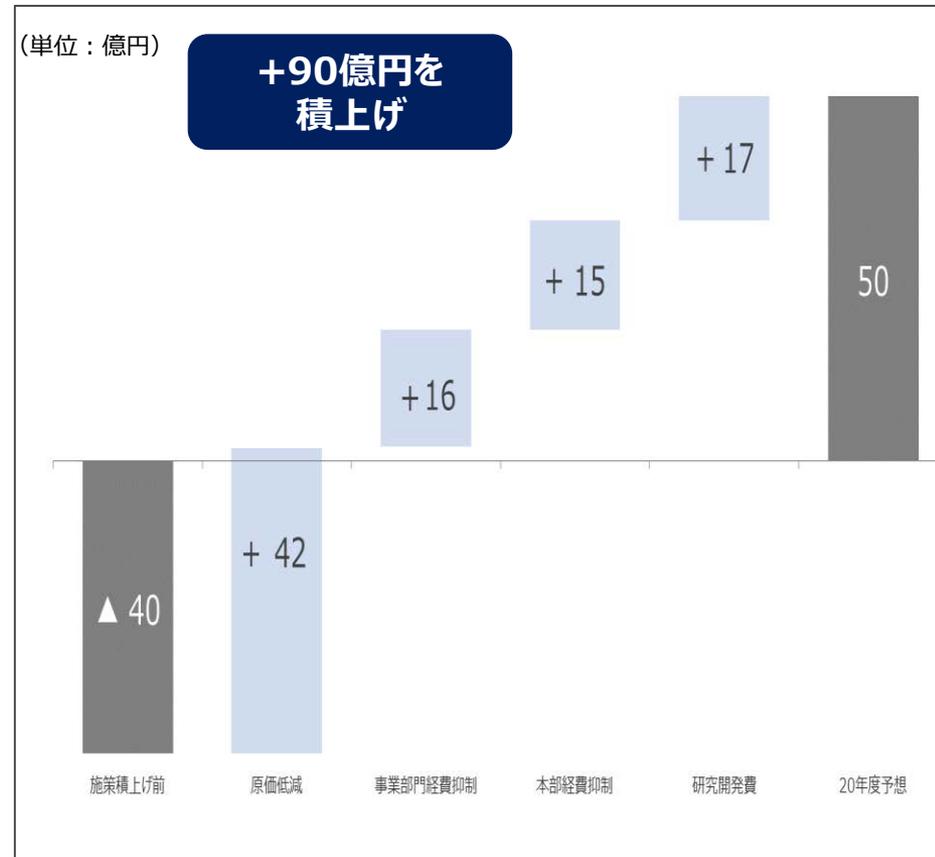
インフラ	中国市況低迷に伴う需給アンバランスによるグローバルな光ファイバ・ケーブルの価格競争は継続も、北米の光ファイバ・ケーブルなど情報通信ソリューション事業全般が改善。エネルギーインフラ事業も国内・海外とも回復基調に
電装エレクトロニクス	自動車業界の回復および海外子会社の稼働率向上による改善
機能製品	データセンタ関連需要は好調継続、スマートフォンや国内建築市場の回復を見込む

全社および事業セグメント別 営業利益予想



- 新型コロナウイルス影響による収益悪化予想をふまえ、緊急経営対策チームのもと全社を挙げて対策を推進中
- 原価低減、経費抑制等に関わる、あらゆる施策の実行により利益予想を積上げ

- 原価低減（生産性改善、購買価格低減等）
 - ・ グループ変革本部との連携による主要事業での取り組み
 - グローバルファイバ・ケーブル事業
 - エネルギーインフラ事業
 - 銅条・高機能材事業
 - ・ 各事業部門への上記施策の横展開
- 各種諸経費抑制
- 研究開発費
 - ・ 優先テーマの見直し
 - ・ 活動の効率化



- 設備投資：緊急対策チームのもと、受注済案件とITインフラ投資にフォーカス
- 研究開発費：新型コロナウイルスによる市場・社会変化に応じた研究テーマ優先度見直し
リモートワーク推進とシミュレーション・デジタル技術活用による研究活動効率化

(単位：億円)

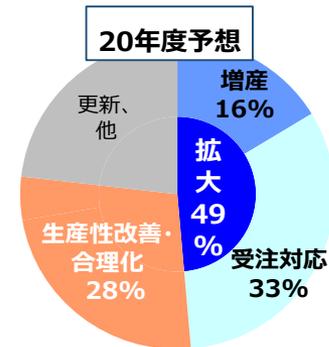
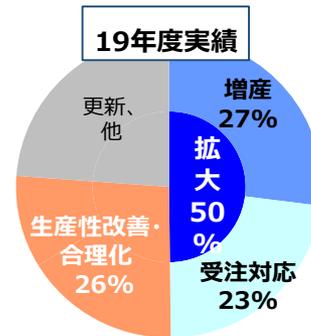
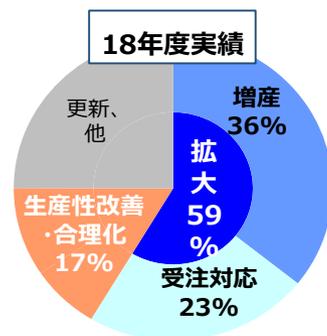
	18年度実績	19年度実績	20年度予想	前年比
設備投資	500	531	470	▲61
減価償却費	263	294	325	+31
研究開発費	211	217	205	▲11

<20年度の注力領域>

■ 設備投資

- ・受注済案件への対応（主に自動車部品事業および電力事業）
- ・ITインフラ投資（新型コロナウイルスを契機とした新しい働き方への対応）を含む生産性改善・合理化投資

設備投資
主要案件内訳



■ 研究開発費

- ・情報通信（5G・デジタル）、次世代インフラ、医療領域など

■ 需要環境の変化や案件毎の要・不要等を徹底的に精査し削減

削減検討前
545億円

▲75億円
削減

20年度予想
470億円

主な削減案件

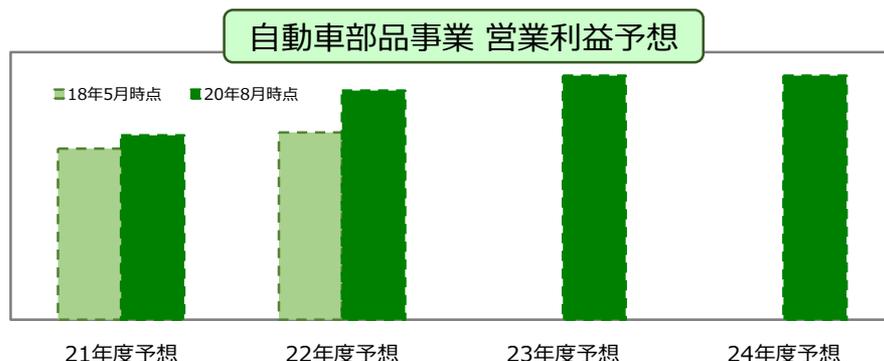
- 需給動向を踏まえた増産投資のタイミング・規模の見直し：光ファイバ製造設備投資等
- 各投資内容の仕様の再確認：自動車部品製造設備仕様の見直しによるコストダウン等
- 稼働状況を鑑みた更新投資実施時期の再精査：事業所共用インフラ設備更新の繰延等

<18-20年度設備投資：18年5月時点予想との差異>

(単位：億円)

	20年度 予想	18-20年度 累計予想 (20年8月時点)	18-20年度 累計予想 (18年5月時点)	差異
全社合計	470	1,501	1,400	+101
インフラ	142	566	645	▲79
電装 エレクトロニクス	175	551	435	+116
機能製品	63	163	150	+13
サービス・開発および 調整額・全社共通	90	221	170	+51

- 増加要因
 - ・電装エレクトロニクス（自動車部品事業）：
アルミワイヤハーネス競争力向上による新車種受注増対応
 - ・機能製品：銅箔の台湾子会社火災復旧対応
 - ・サービス・開発：ITインフラ投資
- 減少要因
 - ・インフラ（情報通信事業）：
需給動向を踏まえた光ファイバ増産設備投資等



ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***

Appendix セグメント別注カポイント

情報通信ソリューション（インフラ）

- ✓ 新型コロナウイルスの影響を受けた北米光ケーブル拠点の安定稼働
- ✓ 競争環境激化の対策としてのコスト競争力改善と商品の差別化
- ✓ データセンタ向け製品群の拡充、拡販加速
- ✓ 5Gネットワーク構築に向けた次世代製品の開発、ソリューション事業の加速

売上高			営業利益		
FY19実績	FY20予想	前年比	FY19実績	FY20予想	前年比
1,664	1,600	▲ 64	16	20	+4

エネルギーインフラ（インフラ）

- ✓ 国内超高压・再生可能エネルギー案件の着実な需要取り込み
- ✓ 工事施工能力および海底線対応設備増強
- ✓ 生産性改善によるコスト削減
- ✓ 軽さ・柔らかさ等の特徴（施工性の良さ）を持ったアルミCVケーブルおよび部品の拡販

売上高			営業利益		
FY19実績	FY20予想	前年比	FY19実績	FY20予想	前年比
1,145	1,050	▲ 95	1	▲ 10	▲ 11

自動車部品・電池（電装エレクトロニクス）

- ✓ BCPに対応できるグローバルサプライチェーンの強化
- ✓ 電動化・自動運転化等CASE対応の軽量化需要の積極的取り組み
- ✓ 北米向けワイヤハーネス拡大に向けたアジアでの増産投資の適切なタイミングでの実行
- ✓ 高機能BSSの量産開始

売上高			営業利益		
FY19実績	FY20予想	前年比	FY19実績	FY20予想	前年比
2,576	2,350	▲ 226	109	10	▲ 99

電装エレクトロニクス材料（電装エレクトロニクス）

- ✓ 耐熱無酸素銅条のパワー半導体向け、放熱部材向け拡販
- ✓ 電子機器の高機能化に対応したオリジナル合金の拡販
- ✓ 5G通信インフラ向けやサーバ用インダクタ向けに差別化した巻線の拡販
- ✓ ニッケル・チタン合金製品の医療器具向け需要を着実に取り込むための体制構築

売上高			営業利益		
FY19実績	FY20予想	前年比	FY19実績	FY20予想	前年比
2,517	1,700	▲ 817	39	0	▲ 39

機能製品

- ✓ データセンタ市場を中心に、新たな収益基盤となる次世代品の開発
- ✓ 新規市場開拓・新用途の提案
- ✓ さらなる生産性向上・市場対応力の強化

売上高			営業利益		
FY19実績	FY20予想	前年比	FY19実績	FY20予想	前年比
1,159	1,050	▲ 109	75	50	▲ 25